2025年3月9日　説教「預言者よりすぐれた者」

ルカの福音書7章18～27節

前回は7章12～18節では、ナインの町のやもめの女の息子が亡くなり、墓に向かおうとする一行は、町の門のところでイエス・キリストに出会いました。主は命の回復を与えてくださいました。悲しみに沈むやもめの女にとっては、大いなる慰めであり喜びでした。

１．バプテスマのヨハネの問い（18～20節）

①ヨハネの弟子たち（18）**「さて、ヨハネの弟子たちは、これらのことをすべてヨハネに報告した。」**

こうした出来事は広く伝わり始めたのですが、バプテスマのヨハネの弟子たちも、こうした出来事を自分たちの師に報告したのです。

②主のもとに弟子達を（19）**「すると、ヨハネは、弟子の中からふたりを呼び寄せて、主のもとに送り、『おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、私たちはほかの方を待つべきでしょうか』と言わせた。」**

ヨハネはこの当時、獄の中にありました（マタイ　11:2）。ヘロデ王がヘロデアを妻とすることは不法だと忠言したことで捕らえられ投獄されたのです。（同　14:3）。ヨハネは報告を受けた後、改めて二人の弟子達を呼び寄せ、主イエスへの質問を託しました。それは、かねてより待望している救い主が、イエスなのかどうかを聞くためでした。さらに待つべきなのかどうかを含めて、獄中のヨハネは切実でした。

③あなたですか（20）**「ふたりはみもとに来て言った。『バプテスマのヨハネから遣わされてまいりました。〔おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも私たちはなおほかの方を待つべきでしょうか。〕とヨハネが申しております。』」**

弟子の二人はイエス・キリストのもとを訪ねました。そして、ヨハネからの伝言をそのまま伝えたのです。イエス・キリストに出会った時から、この方であると確信していたヨハネでしたが、死が迫っていることを推しはかりながら、どうしてもそのことを知りたかったのです。

２．イエス・キリストのみわざ（21～23節）

①多くの人々に（21）**「ちょうどそのころ、イエスは、多くの人々を病気と苦しみと悪霊からいやし、また多くの盲人を見えるようにされた。**

ヨハネの弟子達がイエスのところを訪ねたころ、イエスは憐みの業をしておられました。多くの病人、人生の問題に苦しむ者、悪霊につかれている人達をいやしておられました。また、盲人たちの目をあけるという奇跡の業をしてくださっていたのです。

②見たこと聞いたことを（22）**「そして、答えてこう言われた。『あなたがたは行って、自分たちの見たり聞いたりしたことをヨハネに報告しなさい。目の見えない者が見、足のなえた者が歩き、ツァラアトに冒された者がきよめられ、耳の聞こえない者が聞き、死人が生き返り、貧しい者たちに福音が宣べ伝えられている。」**

イエスはバプテスマのヨハネの弟子達に答えられました。獄にいるヨハネのところに戻って、自分たちの見た事、聞いた事などをそのまま報告しなさいと言われました。即ち、盲人が見えるように、足なえは歩けるように、重い皮膚病であるツァラアトに冒された人はきよめられ、耳の不自由な者が聞こえるようになり、あのナインの町のやもめの息子のように死人が生き返り、貧苦の中にある者に福音への福音伝道がなされているといったことを伝えよと、言われたのでした。

③つまずかない者は（23）**「だれでもわたしにつまずかない者は幸いです。」**

ヨハネは疑ってはいませんでしたし、つまずいてもいませんでした。しかし、真実を知りたいという願いは強くあったと思います。イエスはご自分が誰なのかを知ろうとする人のなかで、つまずかないことを願っておられました。

３．何を見に行ったのですか（24～27 節）

①何を見に荒野に（24）**「ヨハネの使いが帰ってから、イエスは群衆に、ヨハネについて話しだされた。『あなたがたは、何を見に荒野に出て行ったのですか。風に揺れる葦ですか。』」**

さて、ヨハネの弟子たちは帰っていきました。その時に、イエスはバプテスマのヨハネについて話されました。かつて、バプテスマのヨハネが荒野で語った時に、「あなたがたは何を見に行ったのですか」と問われました。ただ単に、荒野に吹く風に揺れる葦を見に行ったのですか。そうではないでしょうと言われています。

②柔らかい着物を来た人ですか（25）**「『でなかったら、何を見に行ったのですか。柔らかい着物を来た人ですか。きらびやかな着物を着て、ぜいたくに暮らしている人たちなら、宮殿にいます。』」**

それでは、何を見に行ったのですか、と再び問われます。興味本位に、ヨハネがどんな物を

着ているかを見に行ったのですか。きらきらと光る繊維の入った着物を見に行ったともいうのですか。そうではないでしょう。そんな人達を見に行きたいのなら、宮殿に行けば良いでしょうと問われます。

③預言者よりも（26～27）**「『でなかったら、何を見に行ったのですか。預言者ですか。そのとおり。だが、わたしは言いましょう。預言者よりもすぐれた者をです。その人こそ【見よ、わたしは使いをあなたの前に遣わし、あなたの道を、あなたの前に備えさせよう】と書かれているその人です。】』」**

あのヨハネはらくだの毛衣を着て、腰には皮の帯をしめ、いなごと野蜜を常食としていました（マタイ3:4）。そんなヨハネの外見を見に行った人などいないでしょう。あなたがたは、預言者としてのヨハネの説教を聞きにいったのでしょう。まさに、そうです。彼こそは預言者です。いやもっと言えば、預言者以上の人です。イエスはマラキ３章１節から引用されました。「見よ。わたしは使いを遣わし、あなたの道を備えさせよう」と預言されている、その人なのた、と明言されたのでした。

《結論》　今朝の聖書箇所にはヨハネとは誰なのか。そしてイエス・キリストは誰なのかが、イエス御自身によって示されています。それを見ていきましょう。

まず、バプテスマのヨハネがどのようなつもりで、弟子達を使いに出して、イエスに「あなたですか」と質問した点について考えましょう。彼はイエスが救い主かどうか疑っていたのでしょうか。いいえ、彼はイエスと出会った時から、「見よ。世の罪を取り除く神の小羊」と言い、さらに、「自分より勝る方とは、この方のことです」（ヨハネ 1:29-30）と確信をもって述べています。それでは、どうして疑っているともとられかねないことを言ったのでしょうか。それは、ヨハネは救い主を、「手で箕を持っておられ、ご自分の脱穀場をすみずみまできよめられ、麦を倉に納め、殻を消えない火で焼き尽くされます」（マタイ 3：12）と考えていたからです。つまり、救い主は直ちに罪を正して、さばきを断行してくださると考えていたのです。ところが、ヨハネの弟子達から聞く実際のイエス・キリストは、なかなかそのことをしてくださらないので、疑いではなくその理由を聞きたいと思っていたのです。実を言えば、計らずもヨハネはこのことを通して、救い主のとらえ方の軌道修正をしなければならなかったとも言えます。

それでは、ヨハネはどのようなことを知らねばならなかったのでしょうか。イエスはヨハネの弟子達にご自分が今なしていることを伝えなさいと言われていますが（22 節）、それは裁きではなく、愛の業でした。多くの人々へのいやしであり福音宣教でした。パリサイ人や律法学者の偽善は正しましたが、民に対しては忍耐をもって愛の福音を説かれたのです。そして、究極的には十字架上で罪の贖いをなされたのです。つまり、罪のさばきを御自身が受けてくださったのです。断罪ではなく、究極の愛を示してくださることになるのです。ヨハネはこの福音の主を知らなくてはなりませんでした。

ヨハネは十字架の福音を知る事ができたのでしょうか。彼はこれからしばらくすると、獄中でヘロデの命を受けた人によって、その首をはねられてしまいます（マタイ 14:10）。つまり、十字架と復活の福音啓示前の人でした。にもかかわらず、イエスはヨハネについて、「預言者よりもすぐれた者」と言われました。ヨハネは救い主がそのわざをなす前に、道備えとして現われた預言者以上の預言者であったのです。ヨハネは十字架のキリストを体験しませんでしたが、キリストを「靴のひもを解く値打ちもない」と、謙虚な自己理解をしていました。多分、愛の福音の主を悟らされて召されたのではないでしょうか。まさに、ヨハネは預言者よりすぐれた人でした。そして、覚えておきたいことは、預言者よりも優れ人ヨハネより、さらに優れた方は、イエス・キリストであることです。そのことを確信させられたいのです。

私たちは幸いにして、十字架と復活の福音にあずかった者たちです。それはただ恵みによります（エペソ 2：8）。あのすぐれた預言者ヨハネがそれを見て知る前に召されたことを思うと、まことに有難いことです。それゆえに、今こそ、この恵みの福音を確かめ、この福音にあって生き、この福音を伝えていこうではありませんか。